

ユース図書基金

2007年 NEC 杯に参加されたアメリカの Leonard Helman さんが日本のユースプレイヤーのために図書基金を寄贈してくださいました。ブリッジ連盟では図書基金より以下のようにユースの図書に関して支援いたします。

1. クラブ創設時等の初心者用書籍

創設クラブのメンバーや新入生の役に立つよう日本語で出版された入門書を支給します。支給された団体は、保管した状態の写真を1枚連盟事務局まで提出して下さい。

対象 ユースプレイヤーの団体が書籍を保管する公共のスペースがあること。会員・会友や公認クラブであるかどうかは問いません。

図書 クラブシリーズ (ビッド編)
ダイヤシリーズ (プレイ編)
ハートシリーズ (ディフェンス編)
カードプレイテクニック
フィネス精選問題集
切札術精選問題集

2. 代表候補選手等の中級者・上級者用書籍

下記リストの書籍などを希望に応じて支給します。下記リストにない本の場合は希望する書籍を連盟事務局まで申告して下さい。支給された団体は保管した状態の写真および読了後のレビューを連盟事務局まで提出してください。レビューは他の団体が支給を希望するとき参考にできるよう公開します。

対象 ユースプレイヤーの団体が書籍を保管する公共のスペースがあること。ユース代表候補に登録しているプレイヤーが所属していること。

図書

- How to Read Your Opponents' Cards (Mike Lawrence)
- Kelsey on Squeeze Play (Hugh Kelsey)
- Negative Doubles (Marty Bergen)
- How to Play a Bridge Hand (William S. Root)
- Dynamic Defense (Mike Lawrence)
- Modern Constructive Bidding (Marshall Miles)

3. 連絡先

公益社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟事務局
担当 貴戸祥郎
TEL 03-3357-3741
e-mail kido@jcbl.or.jp
住所 160-0004
東京都新宿区四谷 1-13TJK 四谷ビル

4. レビュー

Countdown to Winning Bridge

By Tim Bourke and Marc Smith

Master Point Press (July 1, 1999)

原則としてダミープレイでディフェンダーの手をどう読んでプレイするかという本。カウンティングに限った話でもない。

ハンド例はあまり多くはないが、説明が細かいのでまずまず為になる。ウィナーとルーザーを数えることや、サイドスートを触って情報を集めたり、ディフェンスのされ方で手を読んだりして、それに従ってプレイする事が書かれてある。よって、ある意味基本的な事が書かれてあるといえるので、そこまでレベルが高いわけでもない。

最後の章はディフェンスの話。あまり細かいシグナルの話ではなくて、この状況ではATよりCTの方がいい等の話をハンド例とともに示しているだけ。オープニングリードが勝って、それを続けるかどうかという、シグナルが無いと解決しようがない部分なので、わりと重要と言えば重要。

How to read your opponent's cards の内容と似ている所もあるが、全体的にそれらよりは役に立つ技術が多いと思う。Countdown to Winning Bridge のほうがおすすめ。

(2008)

Dynamic Defense at Bridge

by Mike Lawrence

Devyn Press (1985)

Lawrence のディフェンス本。シングルダミーでビッドと途中までの展開が与えられ、そこでどうするかというよくある形式。解説が冗長なほど丁寧で、様々なハンドとディフェンスプランを検討して妥当な解を導く。更に問題のあとに補足として「もしビッドがこう異なればどう変わるか」「持ち方がこう変わったらアンブロックは必要か」などが付随していて非常に親切。「エキスパートが後ろについて余すことなく解説してくれている」気分が味わえ、質の高い勉強が出来る。その解説の優しさと高度なテクニックより堅実なゲスが求められる問題が多いことからかなり幅広い層が読める本ではあるが、基本的な手筋の解説はされていないので初めて読むディフェンス本としては勧めない。今倉先生の「ディフェンスプロブレム」を読み込んだあとで読む本として勧めたい。Killing Defense より簡単で読みやすい。

(2018)

How to Read Your Opponent's Card

by Mike Lawrence

Devyn Press (Second Edition, 1986)

世の中には2種類のブリッジプレイヤーがいる。2way finesse を当てるプレイヤーと外すプレイヤーだ。ビッド、リード、HCP とシェイプのカウント、オポーネントのプラン、テーブルプレゼンス……。 「した」情報だけでなく「オープンしなかったのだから 11HCP 以下だ」「この持ち方ならこちらをリードしていたはずだ」といった「しなかった」情報も含め、良いブリッジプレイヤーは様々な状況からハンドを読む。この本はその技術と実践の解説に1冊丸ごと費やしている。ハンドリーディングはブリッジの重要な技術であり、体系的に学んだことのないプレイヤーは一度読むとプレイの質が間違いなく一段階上がる。

(2018)

How to Play a Bridge Hand

by Williams S. Root

Three Rivers Press (1990)

ブリッジのプレイの手筋集。「Defend a Bridge Hand」の姉妹本で、どちらもデカくて分厚い。単純なパーセンテージプレーからジェティソンプレイ、ダブルスクイズ、ダミーリバーサルすべきか否かというところまで扱っていて、読み応えがある。1年生がこの本で覚えようとするとう分量に圧倒されてしまうと思うので、3年生以上が知識の確認と補強のために読むのがいい使い方だと感じた。

(2018)